



研修に参加して

9月5日（金）大刀洗町ボランティア協議会の方との交流会に行きました。朝8時出発、道中はちよつと長時間でした。大刀洗町ボランティアは11団体で活躍されており、交流会には「大堰アンビシャス広場ボランティア」「配食サービス青い鳥」の方々が参加。

大堰アンビシャス広場は子どもの居場所作りをしてあります。活動内容別に8サークルがあり、活動の際に大事にしていることは、ボランティアも参加の子どもと一緒に楽しみながら、体験や経験をたくさんするとのこと、参加の子どもたちの意見を取り入れて積極的に実行すること、



大刀洗町ボランティア連絡協議会視察会で、挨拶する久我会長

参加した子どもたちは自由に動き楽しみながら自分にできることはやったり作ったりまた洗濯したりと活動すること、だそうです。家庭に戻ってできることは手伝っているのだろうと思いました。

配食ボランティア青い鳥は、一人暮らしの高齢者や障がい者の必要な家庭に、月2回手作りのお弁当を同じ地域の人が届けているとのこと。

配達の時、安否確認を兼ねて声掛けも行っているそうです。

活動の始まりとして、病気で寝込んでいる人、また一人暮らしの高齢者に食事の支援が必要な人がいる、ということが立ち上がりのきっかけになったとのこと。

粕屋町でも、友愛訪問ボランティアさんが活躍してあります。

終了後、大刀洗平和記念館へ足を運びました。大刀洗飛行場があり、戦争の悲劇を目にして、平和の大切さを痛感いたしました。

しおんの会 宮原 優子

久しぶりの研修に

9月5日午前8時に、久我会長他5名、社会福祉協議会3名が、福祉センターを出発し、大刀洗町社会福祉協議会の視察研修に行っ

てきました。他町に行つての交流はコロナ禍以降久しぶりです。

大刀洗町ボランティアセンターは「町民一人一人が得意なこと好きなことを何か一つ活動をする町」をテーマに発足したそうです。

令和7年度は11団体百二十名が参加し、とても活発に動いていきます。会長、副会長さんは今年代わつたばかりで、若くてやる気満々の人でした。

粕屋町でも昔あったアンビシャス広場という子どもたちの活動をサポートするボランティア団体では、若いお父さんの参加で気軽に活動しているようです。

もう一つのボランティア団体は配食サービスです。粕屋町でも婦人会や食進会が弁当づくりを行っています。今ではなくってしまっていました。

大刀洗町では、月に2回午後から作り配食して安否確認をしています。一食あたり三百円を利用者から貰っています。

お話を聞いたボランティア団体は二つのグループでしたが、他にもいろいろありました。

短い時間でしたが、とても活発な意見交換ができました。私たちももう少し会員を増やしてがんばろうと思います。

友愛訪問の会 永井 房子

身障者の介助に

11月8日（土）粕屋町スポーツ公園において糟屋地区身障者協会主催のグラウンドゴルフ大会が秋晴れのもとで行われました。

介助のつもりでしたが、急に選手としてクラブ、ボール、マーカーを受け取ってスタートです。長短の8コースを2回挑戦しました。ボールはあつちこつちに飛んでいき、ホールポストに入りません。コツが分かった頃は終了でした。残念ながら粕屋町のメンバーは入賞しませんでした。メンバーと仲良くなり楽しい一日でした。

友愛訪問の会 永井 房子



糟屋地区身体障がい者福祉協会主催
グラウンドゴルフ大会に粕屋町参加

視察訪問に随行し

9月5日（金）に、大刀洗町社会福祉協議会様への粕屋町ボラ連による視察に随行させていただきました。

大刀洗町ボラ連では、「ちょこつとボランティア」という活動に取り組みられています。得意なことや好きなことを、自分たちができる範囲で空いた時間に活動を行っています。

視察研修のテーマを「見守り」として、大刀洗町ボランティア連絡協議会様に所属する団体の「配食ボランティア青い鳥」さん、「大堰アンビシヤス広場ボランティア」さんとの交流において、貴重なお話を伺うことができました。

大堰アンビシヤス広場ボランティアは、学校・地域・家庭の三連の見守りで子どもの居場所づくりを行っており、子どもたちの意見を踏まえ活動内容を考え、目的を持って活動をしています。継続の秘訣として、大堰アンビシヤス広場ボランティアの中で昔遊びや料理教室等、いくつかのサークルで活動することとお話しされました。サークルを作ることによって、ボランティアの負担軽減になっていきます。

次に、配食ボランティア青い鳥は、一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯、障がい者世帯等で食事の支援が必要と思われる世帯に対し、月2回手作りのお弁当を届けているボランティア団体です。

近年まで粕屋町でも配食はありましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。配食ボランティア青い鳥では、コロナ禍で1年間の自粛期間を経て、現在も活動されています。

この青い鳥の取組では特に、ボランティアがお弁当を作っていることに着目しました。配達する際に利用者へ声掛けを行い、緩やかな見守りを心がけているようです。材料費として1食三百円いただいております。値段は発足当時より変更されていないとのこと。

今回のボラ連の研修に随行させていただいて、ボランティア活動を継続する上での工夫や、見守り活動への思い等を学ばせていただきました。対象者は異なりますが、それぞれに見守りに対して思いがありました。

また、ボラ連運営についてもご教授いただき、今後粕屋町ボラ連の活動に関わる中で、今回学んだことを還元できるよう努めていきたいと思っています。

社会福祉協議会 白石 りさ



10月11日（土）午前、ボラ連運営委員会の折に、町内各地での「花いっぱい運動」に賛同していただけた方へ、花の苗をお配りする手配をしました。【ボラ連名のプランターの花です】

編集後記

ボランティアが望んでいることは人の温かなつながりであり、地域にはそのつながりを求めている人がおられます。出来ることで手伝ってみようと思われたら、是非会長とお話してみませんか。寄稿をお願いした会員の方には感謝を致します。

編集担当 森